



年の瀬も押し迫った12月24日早朝、木更津から横浜行きのバスに乗り横浜で乗り換えて鎌倉小町通りへ向かった。名人野米佑子さんに頼んであった「泥大島」で作ってもらったコートを受け取り、「かまくら山路」の“つけとろ”で昼食をすまし急いで横浜橋商店街へと入る。石川町からタクシーで950円。南口の入口にある「三吉演芸場」は生憎休みでした。この商店街は高いアーケードでつながり、イルミネーションが昼間からキラキラ

輝いている。左右に凡そ200の店が軒を並べ、中道は車が1台通れる位の狭い道路は買い物客でごったがえしていた。変哲もない日用品と食べモノ屋が並んでいる、決してきれいな店舗ではない。なぜこの商店街がにぎやかなのかと頭の中には付近の地図を思い浮かべて見ました。隣接するかつて大遊郭街「真金町」は、今は山谷や釜崎をしのぐドヤ街で住人は数万人といわれ、その隣の寿町は新宿にまさる「ホームレス」が住んでいるところでした。

この「横浜橋商店街」を支えているのはドヤ街、ホームレスの数万人の人達かもしれないと思いながら、クリスマスイブの日暮れの街を後にして「元町通り商店街」を急ぎ足で抜けて「みなとみらい」へ急いだ。元町商店街は一層整備されてウインドショッピングを楽しめる、眺めて歩く街でした。今まで見た商店街の中では格が上であり、時代の先端を行く街通りでした。

桜木町駅から「みなとみらい」までの大通路は大群衆で埋まっていた途中で買った串に刺した大焼鳥は身動きができないためにとうとう食べる事が出来ませんでした。パンパシフィックホテル、ランドマークタワーの満灯の光と遊園地のイルミネーションは光の別世界を作っていました。パンパシフィックホテルの寿司懐石は一桁多い一人前15,900円でした。ビルの高さと値段の高さが比例しているのかと思わず苦笑いしました。東京丸の内のミレナリオを覗ようと思いましたが、東京駅に降りたとたんに40万人の雑踏にビックリし向かうのは止めました。横浜から高速バスに乗って君津へ帰り君津・木更津市内を巡回してみました。まだ午後8時を過ぎたばかりの街はすっかり灯りが消えて人通りもありませんでした。一昨年は夜を鮮やかに染め賑やかに色どっていたイルミネーションは昨年末は全く影を潜めて暗い街でした。せめて店の商いは終わっても8時すぎくらいまではシャッターを下ろさず、店内の灯りを消さないで欲しいものです。「採算が合わないかもしれないけれど光が煌々と輝く所へと人が集ってくる。生きる者の本能だから」とつぶやきながら家路へつきました。

人はなぜ繁華街へ集り暗い街を嫌うのでしょうか。明るい光はものを育て希望を与えますが、暗い闇の世界はものを育てないからであります。